

## 平成 26 年度まちづくり懇談会会議録【小笠東地区】

日 時 平成 26 年 11 月 21 日 19:00～20:45  
会 場 小笠東地区センター  
参加者 49 人

※「菊川市 10 年の歩みと今後のまちづくりに向けて」と題した説明のあと、参加者の皆さまとの懇談（質疑応答）に入りました。

※会場からのご意見・ご質問

### ●10 年間のまちづくりを振り返っての所感・ご意見

#### ●地区自治会長

- ①合併後の一体化はできているが、幹線道路や裏道等の計画性が必要ではないか。特に丹野トンネルの進展は住民の願いですので、菊川市の中でも他のトンネルは市境にあります。これは中にありますので、ぜひ進めていただきたいと思えます。対策はどのようになっているか。
- ②お茶は市の基幹産業ですが対策はなかなか進まず、耕作放棄地はどんどん増えています。農業に後継者が夢を持ってない状況になり、お年寄りができなくなると農業が困ってしまいます。JA に頼るだけでなく、市独自の茶業促進プロジェクトがありますか。
- ③合併後は大きくなって安定してきたものの、地域の誇りとなる歴史文化が薄れてきています。調査はされていても観光や名所への受け入れ対応ができていません。地域の魅力づくりにもっと力を入れるべきではないか。

#### ○市長からの回答

県道川上菊川線の丹野トンネルの件ですが、こちらに来るたびに地域の皆さんから強い要望をいただいております。従いまして当然わたくしも認識をしております。県道でありまして県へ改良の要望に努めてまいりますし、事情につきまして、毎年、毎回袋井土木のみならず、県の土木関係の方にもお願いに行っておりますので、今後も要望を続けてまいりたいと思えます。

また、お茶が低迷する中どんな施策を持っているかとのことですが、財政的な支援を行ったり、あるいは牧之原畑総とかそういったところに経済的な支援を行っております。最近では茶業が低迷していることを承知しておりますので、生産者、茶商、JA、行政など連携する中で、茶業振興計画を策定しま

した。これからの経営体の育成は急務でありますので、今後、組織の在り方を含め、経営改善の作成にも取り組んでまいりたいと思います。特に東地区では後継者不足の中ではありますけども、市内の若手後継者の方で中心となる方もいらっしゃいます。若い後継者の皆さんが私の知っている中でも東地区の中にいらっしゃいますので、これから活動しやすい環境づくりというものを進めていきたいと思っています。先ほど申し上げましたように、最近ではマーケットが国内販売だけでは厳しくなっておりますので、海外のマーケット進出等も先般行いましたように今までの取組に新たに加えておりますし、特に茶業協会におきましては、菊川茶のPR事業に積極的に取り組んでおります。今年度も10月からはJAの茶業に携わった方に茶業協会に入ってくださいまして、これからのお茶の販路拡大に向けて、より積極的に取り組んでまいります。

次に観光名所への対応であります。これにつきましては残念ながら静岡県内の中で観光の流入人口というのは大変残念ですが市の部では一番少ないと思います。したがってこの10周年を記念事業としまして大きな事業を展開してきております。特にいろいろな歴史的なものとか名所、旧跡というものは作れるものではありませんが、特に菊川の露出度と申しますか、マスコミとか新聞とかテレビとかいろいろな話題につきましては、菊川市は非常に高い露出度でありまして、この10周年記念事業を行う中で、県内でも高い評価をいただいております。特にウォーキングとかすぐできるものにつきまして、いろいろな事業に取り組みながら県立美術館の移動美術館とか、アエルを使いましていろいろなイベントとか、今までにないたくさん事業を展開しております。ぜひ、市民の皆さんもいろんなイベントを行っておりますので、菊川市の良さというものを知らせていただきまして、ぜひ菊川市のPRに取り組んでいただければありがたいと思います。

### ●地区自治会長

丹野トンネルは確かに県の事業でやらなければならないということもありますけども、やはり子供たちが学生とか、非常に危険ですので市独自であそこの横に通れるようなものができればいいなと思いますけど、難しい部分もありますのでトンネル自体にこだわらないで、いろいろな方法があると思いますので、また考えていただきたいと思います。

そして、お茶ですがいろんなことで事業を応援しているということは聞いておりますけども、実際耕作放棄地がどんどん増えてきていて、その管理に農家の方も非常に大変になっているとのことですので、これも売れば少しでも持ち主も考えるようになると思いますので、市としてもそういうことを考えていただきたいと思います。

そして、歴史文化とかそういう観光の関係なんですけど、どうしても遺跡でもなんでも調査をすればそれで終わり、そのままにして置いて別のところについてしまうということもありますけども、タクシーの運転手さんにもよく聞かれるんですけども、どこにいったら案内してもらえるか、どこにいったら教えてもらえるかといったときに、やはり、そういったものもないものですから掛川なんかは非常にそれが案内人というのがいたりするんですけど、ないものですからぜひ、そういうことも考えていただければと思いますので、よろしくお願ひします。

#### ○建設経済部長からの回答

丹野トンネルにつきましては、今、市長がお答えしましたように前々から小笠東地区から要望が出されているということは承知しております。しかし、市内には3か所、今、鈴木さんもおっしゃいましたように後山トンネル、伊達方トンネル、そして丹野隧道の3か所あります。市としましても同じように袋井土木の管轄でございますので、ぜひ、オープン化をしてほしいと毎年お願いしているわけでございます。そして丹野トンネルは市内の中のトンネルだからということでございましたが、伊達方トンネル、後山トンネル確かに行政の境のトンネルでございますが、やはりそこに暮らしている方々にとりましては、丹野トンネルであろうが、同じ思いでありますので、そのところはご理解いただきたいと思ひます。

また、お茶につきましても大変厳しい状況でございます。今月14、15と山口県の下関に行ってきました。下関市の中に旧菊川町という地区がございます、それにつきましては、うちの旧菊川町なんですけども友好提携を平成7年から結んでいる地区でございます。そういった中でお茶も販売してきましたが、あんな遠いところで九州の鹿児島のお茶とかそういった近い所であっても菊川茶のリピーターという方がたくさんおりました。「菊川のお茶おいしいよね」「待ってたよ」そういう言葉もいただきました。また、道の駅につきましては、JAから菊川茶が行っているわけですが、100数十万といった売り上げが年間あるということもお聞きしております。

あと、歴史文化ということでございますが、観光ということでお話しさせていただきますが、最近ノルディックウォーキングといってスキーのストックをつけてウォーキングをするのが流行っております。今年に入りまして8回ほどそういったウォーキングを実施しました。7月の中ごろですが、正林寺の方からブルーベリー小笠にいたる、そういったウォーキングを実施しております。1回平均30名から40名の方に参加していただいております。私たちが見ると普段生活の一部に溶け込んでいる風景や文化ですが、市外の方たちからすると

大変新鮮で、緑の中を歩くというのは大変気持ち良いというご意見も頂いております。また、今後もそういった交流人口の増加を計っていきたいと思います。

#### ●丹野：男性

今、丹野トンネルの話がありますが、市の方も十分トンネルの拡幅について意識を持って取り組んでいるということがよくわかりました。私からはもう少し最近の交通実態からみた危険性ということで追加してお話いたします。交通量がどんどん増えています。私が朝7時30分頃丹野トンネルを抜けて菊川市方面に向かいます。すると横地のサークルKの信号のところ、車が30台くらいだんご状態。朝晩は特に交通量が増えているという実態があるということを知りたい。もう一つ、子ども達、高校生の自転車、非常に多いです。丹野、古谷、この東地区、菊川市内はもとより東海道 JR 沿線へ通う子たちはみんなあのトンネルを抜けてく。あのトンネルの中でどんな危険な思いをしているかということを知りたいと思います。私も自転車で通ります。トラックが来るとトンネルの手前で待たざるを得ない。両側が坂なのでかなり回転数を上げてくる、だからトンネルの中でスピードが出るんです。自転車は対向車が来たらトンネルの手前で待たざるを得ない。夜間は真っ暗でもっと危険という状態です。だから最近の交通実態も危険な状態であるということを知りたい、今までも取り組んでいることは十分わかりましたけども、私も住民から何回も言われています。何とかならないか、要望書を何回も出して市長まで届いているのか、真剣に市の職員は考えているのかという意見をいただきました。私、非常につらい立場にありますが、私も実際に走って本当にあそこは危険な状態、菊川警察署にも話していますが、いつ重大事故が起きてもおかしくない、という状況というのをぜひ認識していただいて、今後の取り組み切に願うわけであります。

#### ○建設経済部長からの回答

2年程前ですが、朝6時半から7時頃まで交通量調査で確認させていただいております。それから交通量が増えているというお話をお聞きしましたので、より一層袋井土木に要望していきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

## ●今後のまちづくりに関しての意見

### ○「安心・安全」について

#### ●地区自治会長

- ①高齢者の交通事故が増えています、もっと意識を持たせるべきではないか。
- ②振込詐欺は減っていません。地域での防犯会議や活動を考えるべきではないか。
- ③原発再稼働について、今議論すべきでないと答えていただきましたが、いつ、どのように議論を考えているのか。少し心配なのでお聞きしたい。
- ④水害対策の避難所として地区センターを指定したが、地元ではほとんど公民館に向かいました。地域にあった計画を考えるべきではないでしょうか。また、訓練ではリーダーが必要です。しかし、本番となればリーダーの判断や指示に頼って動くようでは行動が遅くなってしまいます。毎年リーダーが変わるところもありますので、見直す必要もあると思いますがどうでしょうか。

#### ○市長からの回答

高齢者の交通安全についてですが、確かに交差点における高齢者の事故が多発しております。交通安全につきましては警察署と交通安全協会、指導員の皆さんと連携を取りながら高齢者のための交通教室を年に20回程度開催しております。ただ、ぜひ、高齢者の方への交通教室を自治会、コミ協の方で声をかけていただきまして、お互いに交通事故が無いようお願いしたいと思います。特に交通指導隊の皆さんはご無理をお願いして指導、啓発に取り組んでいただいております。感謝するわけでありませうけども、交通指導隊や警察の皆さんも限界がありますので、ぜひ、地域の皆さんで交通安全について、事故防止を呼び掛けていただきたいと思っておりますし、行政におきましては高齢者の交通安全につきましてはさらに、事故に合わないよう担当部局に指示をしたいと思っております。

それから振込詐欺であります。確かに全国的にも県内でも多発しております。菊川市におきましては、市役所の中に消費生活センターを設置しまして、専門の相談員を配置し、悪質商法とか振り込め詐欺などの消費生活に関するトラブル相談や対処方法などの助言や情報提供を行っております。特にこういったことについては啓蒙して市民の皆さんにいろいろな回覧文書を出したり、あるいは出前講座をやったり、研修会などを数多く行っております。そのような際にはご参加をいただきたいと思っております。この12月11日には1時半から中央公民館で見守りネット研修会として消費者被害の状況や見守りの必要性などの研修会を開始しますので、自治会の皆さんにはお出かけいただいでご参加をい

ただきたいと思います。

次に浜岡原発の再稼働についてですが、たびたび議会においても答弁しておりますが、現時点においては市民の理解が得られない限りは再稼働は認めないという従来の考えは変わっておりません。

次に水害時の避難所の考え方と避難時の対応についてでございます。特に今回の18号、19号の台風におきましては、地域の皆さんにはご迷惑をおかけしました。まさに、今回の18号につきましては、それぞれの地域の皆さんがどの地域が浸水被害に合いやすいか、起こりやすいのか、そしてどこに避難すれば良いのかということ、いろいろな地域の皆さんからご提言をいただいております。避難場所につきましては私共も見直しをしますし、そして地域の防災指導員の皆さんや自治会の皆さんにも、ぜひ分析をしていただいて、どこに避難すれば良いのか、これも地震の場合と水害の場合と避難場所、避難方法につきましては、また、安全課を交えて、それぞれの地域の皆さんと協議をして一番確実な避難方法というものを考えさせていただきたいと思います。特に先ほどもお話ししたけども、過去の浸水被害とか土砂災害危険個所については、ハザードマップにも記載されておりますので、ぜひ、それぞれの自治会や自主防の皆さんはそのハザードマップを見ていただきまして、地域のことは地域の皆さんが一番良くおわかりでありますので、ここはこういう風に見直した方が良いのではないかとすることがございましたら、意見をお寄せいただければ連絡調整を行いますので、今後も災害時にはご協力をお願いしたいと思います。

### ●鈴木地区会長

1番と2番はそれぞれこれから考えていただくということで、原発再稼働ということについては、皆さんの中から、これは議会の判断で行くのか、住民の判断で行くのか、その辺がよくわからないのですが、住民がこの前アンケートも取って一応半分以上が稼働反対ということになりましたけども、こういった中で、アンケートで住民の判断で行くのか、住民の代表ということで議員の判断で行くのかを教えてくださいたいと思います。

そして、水害対策は18号19号の中でいろいろと教訓になったわけですが、誰が指示するかということにもなりますので、指示は必要なんですけど、その指示する人が勤めていていなかったり、いろいろなことがありますので、リーダーということを強くおいていくと自分たちの判断というものも薄くなってしまわないかという気がしまして、これから女性でも子供も危機感を持つことが必要ではないかと思いましたので、その点をご回答いただきたいと思います。

### ○市長からの回答

原発の再稼働につきまして、先般市民アンケートを行いました。一つの市民の皆さんの動向を調査させてもらいました。したがってそういうことも含めまして、私は現時点で再稼働を認める考えはないということでございます。今、再稼働させるかどうかという話をどこで決めるかということではありますが、まだ、それを話をする段階ではなく再稼働させないと言っているわけでありまして、それを最終的にどこにするかということは今の状況ではないということでもあります。

### ○危機管理部長からの回答

水害の関係についてお答えいたします。台風18号、19号の関係で19号では避難準備という段階からこちらから連絡させていただきました。避難準備がありまして、避難勧告、その後避難指示という三段階で発令することになっていきます。避難準備につきましては、高齢者や避難に時間のかかる方について、あらかじめ避難をしようというのが避難準備です。避難勧告はこちらから避難を進める情報であります。避難指示はできるだけ避難をしてもらいたいと、こちらからお願いするもの、この三段階のものがありまして、先日の自主防災会の研修会の中でも役員の方をお願いしたことは、こちらから情報を流してもなかなか避難に結びつかないということもあると思います。その中で自主防の役員の皆さんが率先避難者といまして、率先して避難していただく方になっていただいて皆さんに声をかけながら先に行って公会堂を開けるとか、そのような役割をぜひお願いしたいということをお願いしました。その中で主となって地域の自主防の役員さんとか自治会の皆さんで、そういう場合にはどういう形で避難してとかいうことは、あらかじめ相談いただきまして、日中の場合は誰が残っているとかそういうことも含めてですね、少し考えていただくことが必要だと思います。そういう形で役員の方には率先して避難していただきたいとお願いしておりますので、よろしく申し上げます。

### ●地区自治会長

一つだけお願いしたいと思います。18号の時に小学校や幼稚園、保育園、保育園等は水害の関係を知らなかったという風になってましたので、聞いたら全然知らなかったと。市の方から連絡が無かったものですから、それは教育委員会ですとかそういう形になっているのですか。

### ○危機管理部長から

連絡がいかないというのは、どのような連絡、内容的には被害の状況でしょ

うか。

●地区自治会長

災害で川がいっぱいになっているから危険だということが、子どもを連れて行った親が聞いたら全然知らなかったということを知りました。連絡網というのがどういう風になっているのかお聞きしたい。

○危機管理部長から

具体的にはどこの保育園とかがありますか。

●鈴木地区会長

東保育園です。幼稚園とか小学校にも連絡が行っているのかお聞きしたい。

○教育文化部長から回答

基本的に台風とか大雨とか18号の時につきましては、必ず、学校が先ず判断いたします。特に幼稚園につきましては学校の判断に準拠しまして、休園ということ判断することになっていきますので、必ず担当の課の方から連絡するようになっています。保育園につきましては休園というのがなかなか難しい。これは法的なものもございまして、送ってきてくれたお子さんについては園で保育するということになっておりますので、市内の保育園ではやっていたと思いますし、受け入れない場合でもご家庭での保育ということをご家庭に連絡していると思います。実際に保育園の方にも幼稚園が判断をした時には、担当課の方から今こういう判断をしたというような連絡をしていると聞いておりますので、実際にやっております。

○「**地域医療**」について

●地区自治会長

①医療や介護に頼る方が増している中で、市民がもっと運動に力を入れたり、文化活動に生きがいを持たせることが医療費の節約につながるのではないのでしょうか。体育館や文化施設の在り方に力を入れるべきでないか。医療費を減らす検討はどうされているのでしょうか。

②菊川病院の待ち時間が長いですが、開業医で迅速に受診できる方法を考えてほしい。

○市長からの回答

市民の健康づくりのための施設を作ることによって医療費を減らすというこ

とですが、まず、市におきましては総合健診や婦人科検診、そして国保では特定健診等、検診の機会をなるべく多くしまして、早期発見、早期治療に努めております。市民の皆さんには年1回は検診を受けていただきたいと思います。特に施設的な整備をして健康を作るということも必要ですが、菊川市におきましては今年度、特にロコモ予防というキーワードを使いまして、いろいろな教室を開催したり、ウォーキングの事業を実施したり、出前講座を実施したり、特に各自治会に一人お願いしております健康づくり推進委員さんにいろんな形で事業を計画していただいております。ぜひ、積極的に参加いただきたいと思います。そして、体育施設や文化施設につきましても、今後、利用しやすいような施設になるように行政としましても体育協会さんと話し合いをしながら市民の皆さんが健康づくりに関われるような教室や講座を開けるようお願いをしてまいりたいと思います。

次に菊川病院の待ち時間について大変申し訳ないと思っております。予約制でやっているということで病院から報告をいただいておりますが、なかなか患者さんも多いし、患者さん一人ひとり違う診察をするので、非常に市民の皆さんにご迷惑をかけているということをご理解をいただきたいとのことでした。そして、開業医の先生ということですが、菊川市におきましては赤土クリニック、あるいは開業医の先生が市内に25ほどいらっしゃいます。ほとんどの診療科目は菊川病院にない診療科目まで市内の開業医にはございますので、ぜひ、慢性的なものなどについて開業医の先生に診ていただければありがたいと思います。今、菊川市では病診連携と申しまして、開業医の先生と菊川病院と連携を取りまして紹介制度というのをお互いにやっております。それが年ごとに軌道にのってまいりまして、これからも開業医の先生の良い所、自治体病院の良い所それぞれを活用しながら市民の皆さんの医療、あるいは健康、あるいは介護というものに取り組んでまいりますので、上手に自治体病院と開業医の先生をご利用いただければありがたいと思います。大変待ち時間が長いということにつきましては、申し訳ないと思いますが、医者の数が菊川病院で25人程しかいないものですから、特に内科、外科、整形外科につきましては、待ち時間が長いと聞いておりますが、ぜひ、ご理解をいただきたいと思います。

### ●地区自治会長

地域医療につきましましては、努力していただくことが大切だと思いますので、少しでも介護医療費とか膨大な金額になっていますので考えていただきたいと思います。なるべく介護や医療に携わらずに楽しみを持っていける人を増やしていただきたいということです。

## ●鈴木地区会長

### ○「子育て支援」について

- ①働く女性が増加しています。更なる支援を期待します。これは要望です。
- ②子供の躰を学校に頼っている家庭も多くなってきました。地域教育や道德教育を考え、地域を大切に親子で話し合える子育てを推進してほしいと思います。次世代の人材をどのように育て、地域や人命、天命を大切に思う子どもを育てる菊川市独自の子育てや教育が必要ではないかと思いますが、文部科学省の道德教材は市ではどのように活用されているのかお聞かせください。

### ○市長からの回答

建設的なご意見ありがとうございます。市では特に子育てには力を入れています。主婦が子育てしやすいまちということで、静岡新聞のビブレで取り上げていただいておりますし、さらに子育てに対する対策というものは積極的に取り組んでいきたいと思っております。平成27年度から子ども子育て支援制度に伴いまして、子ども子育て支援計画を策定しております。どのように変わるかということは、市内の幼稚園や保育園と協議しながら保育される親の立場になって、保育しやすい幼稚園保育園というものを検討しているものであります。そして放課後児童クラブにつきましても、平成27年度から条例改正をし6年生まで受け入れられる法整備をしていきたいと考えております。このような形で働く女性の皆さんが安心してお仕事ができるような支援に取り組んでまいります。

道德教育についてですけれども、非常に重要なことでございます。菊川市で生まれ育って、そして菊川市に愛着を持って郷土愛をもって菊川市で生活をして、働きに出て結婚して子供を産んでというような郷土愛を持てるような取り組みをこれからしていきたいと思っております。なぜかということは東京一極集中で若い人たちはみんな東京へ行ってしまう。なかなかIターンJターンUターンしない。そういう中で子供たちに菊川市の良さというものをきちっと教育することによりまして、菊川市に住んでこれからの時代を担う人たちを育てていく事がこれからの非常に重要なテーマだと思っております。道德教育については教育長から答弁させていただきます。

### ○教育長からの回答

今、道德教育は週に1回、学級担任が授業を行っています。文科省から出ている道德教材は心のノートという中で私たちの道德という名前で、教科書ではありませんが、テキストとして使っています。授業の中では特に心情、そして生き方と知識を勉強していますが、学校の授業の中ではなかなか道德が育って

きません。ですので学校では授業で知識を中心に指導しておりますが、そのほかには体験的なこともやっております。例えば福祉活動をとおして職場体験学習や防災教育をとおしていろいろな授業を行っています。家庭では親子愛や郷土愛、その家の歴史をとおして先祖様の在り方とか流れみたいなものを家庭では教えてほしいと思っています。そして地域では地域活動をとおして社会の連帯そういうものをお祭りなどをとおして、それら全体をとおして礼儀やマナー、そして故郷を愛することを勉強していってくれるとうれしいと思っています。学校だけではなくて、家庭、地域一体となってすばらしい子どもに育てていきたいと考えて道徳教育をしています。

#### ●鈴木地区会長

子育て支援はいろいろと進めているということですので安心しました。文科省の道徳教材というのはPTAや家庭に対してどのように示しているのか。

#### ○教育長からの回答

特別家庭では使っておりません。学校の授業で使っています。学校から渡されるものとしましては学級だよりや学校だよりがあります。その中に家庭への子供の道徳に対してお願いすることはありますが、教材を家庭でやるということは特別にはしておりません。

#### ●鈴木地区会長

子供が勉強しても、親の考えが変わっていかないと学校だけで勉強する形になってしまうので、別の方法で親にも伝わるような方法も考えていかなければ子供だけのものになってしまうのではないかなと思います。最終的には責任というのは親にあると思っています。学校に全て頼るということになってしまうと、親は道徳ができていない、子供だけできているという形になってしまうものですから、その辺も考えていただきたいと思います。

(閉会：20:45)